

## 外国人を災害弱者にしない

### 船橋市「やさしい日本語」を取り入れた防災ハンドブックとハザードマップ

船橋市は、外国人向けの防災情報ツールとして、市の国際交流協会と連携して作成した「防災ハンドブック」、「多言語防災ハザードマップ」などを市のホームページで公開しています。

「防災ハンドブック」は、すべての文章が、噛み砕いた表現の「やさしい日本語」で書かれており、漢字にはふりがなが振られています。そこに英語、中国語、韓国語が併記してあるので、日本人や外国人が、その内容を把握、共有することもできる構成です。

各章は、「日頃の備え」「地震」「台風や大雨のとき」といった、防災についての基礎知識を、イラスト入りで丁寧に解説。避難施設を示すマークの色々な実例や、ピクトグラムの意味を紹介したり、『つなみ』『けいほう』『たかだい』『ひなん』のことばを聞いたら、すぐに海から離れて、高い所に逃げてください」というように、とっさの時に必要な情報が書かれています。

「災害の時に使うことば」の章は、「なにが おこって いるのですか」という質問の後に「地震」「津波」「大雨・洪水」といった災害の種類を表すイラストが配置されているなど、災害時に必要なやり取りを指さしによって行うことができます。

市によると、防災ハンドブックは8000部を作成。各種公共施設などで配布し、好評とのこと。

「多言語防災ハザードマップ」は、「防災ハザードマップ」を多言語化したもので、Webブラウザ上で利用が可能です。津波や河川の氾濫、東京湾北部地震が起こった場合の震度および液状化現象が予想される地域を、色分けして地図上に表示できる他、避難施設についても、一時避難場所・広域避難場所・宿泊可能避難所・福祉避難所・津波一時避難施設・帰宅困難者支援施設といった種別ごとに、選択して表示できます。

また、土地勘がない外国人の利用を想定しており、スマートフォンのGPS機能を利用し、現在地とマップを照らし合わせることで、看板や建物の文字が読めなくても避難施設までたどり着くことができます。



こちらにも、英語、中国語(簡体字)、韓国語に加えて、「やさしい日本語」版も制作。避難施設の名称はすべてひらがなで表し、凡例にも、「一時避難場所」に「災害(さいがい)があったときに逃(に)げるところです。学校(がっこう)や公園(こうえん)など広(ひろ)いところ。」と説明文を書き添える等、外国人にも理解してもらいやすい内容が心がけられています。

船橋市 多言語の防災情報 <http://www.city.funabashi.lg.jp/kurashi/chiiki/006/p042278.html>

多言語対応協議会「やさしい日本語」について <http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/easyjpn.html>

### 問い合わせ先

船橋市 市長公室 秘書課 国際交流室 TEL : 047-436-2083 <http://www.city.funabashi.lg.jp/>

船橋市国際交流協会 TEL : 047-436-2083 FAX : 047-436-2089 <http://www.fira.jp/>